

令和3年度

和歌山国際厚生学院 理学療法学科

# シラバス

実務家教員担当科目

講義名	理学療法概論Ⅲ（言語聴覚療法概論）
講師名	山崎 良一（実務家教員）
学年・期	2年前期， 1単位， 30時間（講義）
講義目標	コミュニケーション障害， 嚥下障害の種類とその対応
授業計画	<p>第1回 概論， 言語聴覚療法とは</p> <p>第2回 ことばの仕組み</p> <p>第3回 聞こえの仕組み</p> <p>第4回 嚥下の仕組み</p> <p>第5回 失語と脳</p> <p>第6回 失語症① 症状とメカニズム</p> <p>第7回 失語症② 接し方</p> <p>第8回 構音障害① 症状とメカニズム</p> <p>第9回 構音障害② 接し方</p> <p>第10回 嚥下障害</p> <p>第11回 言語発達遅滞</p> <p>第12回 聴覚障害</p> <p>第13回 高次脳機能障害</p> <p>第14回 検査</p> <p>第15回 関係法規とまとめ</p>
履修上の注意	特になし
成績評価	期末試験， 提出物， 出席状況を総合して判断する。 単位認定者：山崎
テキスト	参考図書， その他
	<p>絵でわかる言語障害 言葉のメカニズム から対応まで gakken</p>

講義名	理学療法研究法	
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）、松井 有史（実務家教員）	
学年・期	2年後期, 1単位, 30時間（講義）	
講義目標	①理学療法研究の意義について理解する。 ②理学療法研究の計画について理解する。 ③理学療法研究の実際について理解する。 ④医療統計について理解する。 ⑤学会発表や論文執筆について理解する。	
授業計画	第1回 なぜ、研究をするのか？ 総論（研究とは） 第2回 どんな研究ができるの？ 理学療法研究の展開 計画をたてよう！ 第3回 研究計画① ”信頼性” ”妥当性” はありますか？ 第4回 研究計画② 予行練習と見直し 第5回 研究計画③ 第6回 基礎研究① 組織や細胞にかかわる研究 第7回 基礎研究② 生化学、生理学の研究 第8回 臨床研究①（動作解析・筋電図・脳研究） 第9回 臨床研究②（ランダム化比較試験・症例研究） 第10回 臨床研究③（呼吸・循環・代謝） 第11回 臨床研究④（質問紙・疫学） 第12回 医療統計 第13回 発表・論文作成 第14回 臨床研究⑤（システマティックレビュー・メタアナリシス） 第15回 まとめ	石橋 石橋 石橋 石橋 石橋 松井 松井 松井 松井 石橋 松井 石橋 松井 松井 石橋 石橋
履修上の注意	卒業研究や卒後研究を行う上で基礎となるのでしっかりと学んでください。また、国家試験の出題範囲でもあるのでしっかりと学んでください。 予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。	
成績評価	課題提出状況・確認テスト・定期試験など総合的に判断します。 単位認定者：松井有史、石橋誠隆	
テキスト	参考図書, その他	
	適宜プリントを配布する	理学療法研究の進め方 文光堂  標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第2版

講義名	臨床リハビリテーションの実際（運動器画像のみかた）（通年）		
講師名	河西紀秀		
学年・期	3年前期（通年）	1/3単位	30/90時間（講義）
講義目標	運動機能評価として画像を理解することは重要である。特に基本的な正常画像の理解、代表的な運動器疾患画像について理解を深める。		
授業計画	<p>第1回 運動機能評価としての画像の読影について①</p> <p>第2回 運動機能評価としての画像の読影について②</p> <p>第3回 正常画像の理解（脊椎）と体表解剖の理解</p> <p>第4回 正常画像の理解（股関節）と体表解剖の理解</p> <p>第5回 正常画像の理解（膝関節）と体表解剖の理解</p> <p>第6回 正常画像の理解（足関節）と体表解剖の理解</p> <p>第7回 正常画像の理解（肩関節）と体表解剖の理解</p> <p>第8回 正常画像の理解（肘関節/手関節）と体表解剖の理解</p> <p>第9回 運動機能障害と画像（脊椎）</p> <p>第10回 運動機能障害と画像（股関節）</p> <p>第11回 運動機能障害と画像（膝関節/足関節）</p> <p>第12回 運動機能障害と画像（肩関節/肘関節）</p> <p>第13回 国家試験問題</p> <p>第14回 国家試験問題</p> <p>第15回 まとめ</p>		
履修上の注意	プロメテウス解剖学アトラス及び標準整形外科を持参して下さい。また、グループワークでは積極的に参加しましょう。		
成績評価	出席状況及び定期試験の結果で評価します。		
テキスト	参考図書. その他		
	プロメテウス解剖学アトラス、標準整形外科学	PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方（医歯薬）	
	適宜、プリントを配布します。	運動療法に役立つ単純X線像の読み方（メジカルビュー社）	

講義名	臨床リハビリテーションの実際（脊損リハビリテーション分野）
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年） 1/3単位 30/90時間（講義）
講義目標	<p>①脊髄の解剖と機能について理解し、具体的に述べる事ができる。  ②脊髄損傷の病態や合併症などを理解し、具体的に述べる事が出来る。  ③脊髄損傷の評価について理解し、具体的に述べる事ができる。  ④脊髄損傷の治療・リハビリテーションについて理解し具体的に述べる事ができる。  ⑤ADL・QOLの観点から社会復帰について理解し、具体的に述べる事が出来る。</p>
授業計画	<p>第1回 脊髄損傷では何が起こる？ （解剖・機能、病態生理）  第2回 タイプが違くと中身が違う！？ 脊髄損傷の各損傷タイプ、自律神経障害  第3回 排泄ができないと… 脊髄損傷の排尿・排便障害  第4回 合併症に気をつけろ！ 脊髄損傷の合併症について  第5回 脊髄損傷の評価① ～情報が命～ （情報収集、各種評価）  第6回 脊髄損傷の評価② ～いろいろな評価がある～ （各種評価）  第7回 脊髄損傷の評価③ ～代表的な分類と基準を覚えろ！～ （ASIA、Zancolliniなど）  第8回 特徴的な呼吸・呼吸方法をする 脊髄損傷の呼吸障害  第9回 命が最優先事項！ 脊髄損傷のリハビリテーション①急性期  第10回 機能を取り戻す！ 脊髄損傷のリハビリテーション②回復期  第11回 動作を再獲得！ 脊髄損傷のリハビリテーション③基本動作・移乗動作  第12回 生活を広げる動作を獲得！ 脊髄損傷のリハビリテーション④移動動作  第13回 日常生活をしやすくする！ 脊髄損傷のリハビリテーション⑤ADL  第14回 脊損とともに生きる。 脊髄損傷のリハビリテーション⑥生活期  第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>国家試験にも多く出題される範囲になります。  予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。</p>
成績評価	<p>期末試験・授業毎の確認テスト・課題提出状況を総合して判断します。  単位認定者：石橋 誠隆</p>
テキスト	<p>参考図書. その他  脊髄損傷理学療法マニュアル第2版 文光堂</p>

講義名	臨床リハビリテーションの実際（装具療法分野）
講師名	木下 利喜生（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/3単位. 15時間（講義）
講義目標	装具療法とは、疾患部の関節などを固定・支持するものを装着して機能を改善・疼痛を取り除いたりしながら日常生活を送る為、治療に重要な役割を担っている。装具の使用方法によっては、悪化する恐れがある。本講義では正しい装具使用方法・適応を理解し学んでいく。
授業計画	<p>第1回 県下における装具療法の現状</p> <p>第2回 県下における装具療法の現状2</p> <p>第3回 短下肢装具の実際</p> <p>第4回 短下肢装具の実際2</p> <p>第5回 外側ウェッジと臨床での使用方法</p> <p>第6回 外側ウェッジと臨床での使用方法2</p> <p>第7回 装具療法の実際とフィットネス</p> <p>第8回 装具療法の実際とフィットネス2</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>
履修上の注意	装具、特に脳卒中に適応する短下肢装具や長下肢装具については事前に理解しておくこと。
成績評価	定期試験により判定する
テキスト	参考図書. その他
	特に指定なし
	授業中プリントを配布します

講義名	臨床リハビリテーションの実際（内部障害）
講師名	森本 信三（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/3単位. 15時間（講義）
講義目標	本講義は、生活習慣病を中心とした内部疾患に対するアプローチ方法や知識の学修の体得を目標とする。昨今の日本では生活習慣病は大きな課題であり、健康維持のためにも理学療法でできることを探求し、知識・技術を得るための講義である。
授業計画	<p>第1回 生活習慣病、糖尿病とは</p> <p>第2回 医学的評価、薬物療法</p> <p>第3回 糖尿病合併症、リスク管理</p> <p>第4回 食事療法</p> <p>第5回 運動療法</p> <p>第6回 他疾患 + 運動療法</p> <p>第7回 理学療法</p> <p>第8回 行動変容、グループワーク、産業理学療法</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>
履修上の注意	今までに学習した「生活習慣病」について復習すること
成績評価	定期試験より判定する
テキスト	参考図書. その他
	特に指定なし
	授業中プリントを配布します

講義名	理学療法管理学
講師名	中村 昌司（実務家教員）
学年・期	2年後期（金4）. 1単位. 30時間（講義）
講義目標	医療機関および介護事業所を取り巻く経営環境は社会保障制度全般における見直しが進む中、厳しさを増している。特に病院経営は医療経済政策誘導により効率的かつ質の高い医療提供が求められている。また、機能分化策の推進により各医療機関および介護事業所が取るべき戦略は多様化している。本講では、医療・介護の今日的問題を理解すると同時に、特にリハビリテーション分野における経済（経営も含めた）、管理という観点から、必要な知識を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 講義のガイダンス</p> <p>第2回 なぜ今医療経済（経営）の知識が求められるか</p> <p>第3回 社会保障制度概略と医療の位置づけ</p> <p>第4回 近年の医療制度改革の動向</p> <p>第5回 医療・福祉事業経営のしくみ</p> <p>第6回 診療報酬制度について</p> <p>第7回 診療報酬 リハビリテーション料について</p> <p>第8回 診療報酬 リハビリテーション料について 2</p> <p>第9回 診療報酬 回復期リハビリテーション病棟入院料等について</p> <p>第10回 医療の質に基づく支払い方式（P4P）</p> <p>第11回 地域医療連携について</p> <p>第12回 リスク管理について①</p> <p>第13回 リスク管理について②</p> <p>第14回 リスク管理について③</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	講義の進行はシラバスと異なる場合もあります。教室内外を問わず、積極的な質問や要望は大歓迎です。但し、講義中の私語は特に謹んで下さい。お互いに授業を盛上げるよう努力しましょう。
成績評価	[定期試験] 70%（授業全般にわたっての理解を試験により確認する。） [受講態度] 30% 単位認定者：中村昌司
テキスト	参考図書. その他
印刷物配布	<p>西村周三他『医療経済学の基礎理論と論点』（頸草書房 2006）</p> <p>国際医療福祉大学医療経営管理学科編『医療・福祉経営管理入門四訂版』（国際医療福祉大学出版会 2004）</p> <p>武藤正樹『よくわかる病院の仕事のしくみ』（ぼる出版2007）尾形裕也『看護管理者のための医療経営学』（日本看護協会出版会2009）ほか</p>

講義名	組織学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年後期, 1単位, 30時間（講義）
講義目標	理学療法部門の組織学、及び理学療法士としての人材像を理解することを目的とする。具体的には、理学療法部門の人事・予算・物品・部門開設などの管理運営に関する事項について学習し、また、臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について、日本理学療法士協会の倫理規定などに沿って学習する。
授業計画	<p>第1回 理学療法における倫理 キーワード：理学療法、守秘義務、個人情報保護、インフォームドコンセント</p> <p>第2回 理学療法における倫理（守秘義務、個人情報保護）</p> <p>第3回 理学療法における倫理（インフォームドコンセント）</p> <p>第4回 理学療法における倫理（診療録への記載と保存義務）</p> <p>第5回 理学療法における倫理（情報開示）</p> <p>第6回 理学療法における倫理（安全確保など）</p> <p>第7回 理学療法における倫理（ハラスメント）</p> <p>第8回 理学療法における倫理（守るべきモラルとマナー）</p> <p>第9回 理学療法における管理 キーワード：ハインリッヒの法則、医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハット（イ</p> <p>第10回 理学療法における組織（質の管理）</p> <p>第11回 理学療法における組織（運営管理）</p> <p>第12回 理学療法における組織（業務管理）</p> <p>第13回 理学療法における組織（労務管理）</p> <p>第14回 理学療法における組織（人材育成）</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	上記の「キーワード」について調べ、自分自身の意見を他者にわかりやすく伝えられるようにしておくこと。
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する
テキスト	<p>参考図書, その他</p> <p>テキスト：理学療法士ガイドライン、職業倫理ガイドライン（日本理学療法士協会）日本理学療法士協会のホームページより、「協会について」→「定款・規定」→「業務」をクリックすると、PDF版がダウンロードできます。</p> <p>理学療法管理学 南江堂</p>

講義名	障害別理学療法評価法
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	2年後期, 1単位, 30時間（講義）
講義目標	理学療法評価のプロセスを理解し, 理学療法を展開するために必要な検査・測定技術を習得することを目的とする。特に本講義では, 検査・測定の目的とその評価するために, 整形外科的検査を理解し, 実技も習得していただきたい。
授業計画	<p>第1回 整形外科検査方法 概論（問診・視診・触診）</p> <p>第2回 頸椎部・胸郭部の検査</p> <p>第3回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査</p> <p>第4回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査のデモンストレーション</p> <p>第5回 頸椎部・胸郭部・腰部の検査のデモンストレーション</p> <p>第6回 実技（触診・脈拍）上肢・下肢・体幹</p> <p>第7回 体幹・上肢の検査（肩関節・姿勢・肢位）</p> <p>第8回 上肢の検査（肘）</p> <p>第9回 上肢・下肢の検査（手・股関節）</p> <p>第10回 下肢の検査（股関節）</p> <p>第11回 下肢の検査（膝関節とその周囲）</p> <p>第12回 下肢の検査（膝関節とその周囲）</p> <p>第13回 下肢の検査（足関節とその周囲）・体幹の検査（髄膜刺激症状も含む）</p> <p>第14回 上肢・下肢・体幹の検査デモンストレーション</p> <p>第15回 上肢・下肢・体幹の検査デモンストレーション まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では, 運動可能な服装を用意してください。
成績評価	定期試験により判断する。単位認定者：笠井 正
テキスト	参考図書, その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイパック

講義名	理学療法評価法実習Ⅰ
講師名	中前 匡輝（実務家教員）
学年・期	2年前期、2単位、60時間（A+B講義）
講義目標	理学療法評価に必要な評価技術として、関節可動域検査（ROM）と徒手筋力検査（MMT）を理解し、実技の中では理学療法士として必要な「身体機能」について理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 理学療法評価総論、関節可動域総論</p> <p>第2回 関節可動域検査（上肢測定：肩）</p> <p>第3回 関節可動域検査（上肢測定：肘、前腕、手）</p> <p>第4回 関節可動域検査（下肢測定：股、膝、足、足部）</p> <p>第5回 関節可動域検査（肩甲帯、母指、指、頸部、胸腰部）</p> <p>第6回 関節可動域検査（顎関節検査法など、まとめ、小テスト）</p> <p>第7回 生理学：痛みのメカニズム</p> <p>第8回 痛みの評価、動作分析から可動域を予測する</p> <p>第9回 形態測定 四肢長（実技）</p> <p>第10回 形態測定 周径（実技）</p> <p>第11回 リスク管理総論：バイタルサイン</p> <p>第12回 バイタルサイン実技</p> <p>第13回 実習対策Ⅰ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p> <p>第14回 実習対策Ⅱ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p> <p>第15回 実習対策Ⅲ（実際の症例から可動域制限の原因を考える）</p>
履修上の注意	実技が中心の講義になります。運動可能な服装で参加してください。
成績評価	期末試験、実技試験。単位認定者：中前匡輝
テキスト	参考図書、その他
	臨床理学療法評価法 第2版 IPEC 監修；鈴木俊明

講義名	理学療法評価法実習Ⅰ
講師名	河西 紀秀（実務家教員）
学年・期	2年前期，2単位，60時間（A+B講義）
講義目標	理学療法評価に必要な評価技術として、関節可動域検査（ROM）と徒手筋力検査（MMT）を理解し、実技の中では理学療法士として必要な「身体機能」について理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 徒手筋力テストの原理、下肢の筋力テスト1</p> <p>第2回 下肢の筋力テスト2</p> <p>第3回 下肢の筋力テスト3</p> <p>第4回 下肢の筋力テスト4</p> <p>第5回 上肢の筋力テスト1</p> <p>第6回 上肢の筋力テスト2</p> <p>第7回 上肢の筋力テスト3</p> <p>第8回 上肢の筋力テスト4</p> <p>第9回 上肢の筋力テスト5</p> <p>第10回 上肢の筋力テスト6</p> <p>第11回 上肢の筋力テスト7</p> <p>第12回 頸筋のテスト1</p> <p>第13回 頸筋のテスト2</p> <p>第14回 体幹筋のテスト1</p> <p>第15回 体幹筋のテスト2</p>
履修上の注意	実技が中心の講義になります。運動可能な服装で参加してください。
成績評価	定期試験及び積極的な授業参加を総合して判断する。単位認定者：河西紀秀
テキスト	参考図書，その他
	臨床理学療法評価法 第2版 IPEC 監修；鈴木俊明
	新・徒手筋力検査法 第9版 協同医書出版社

講義名	理学療法評価法実習Ⅱ	
講師名	松井有史（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 2単位. 60時間（講義・実習）	
講義目標	<p>学内教育と臨床評価実習を経て学んだことを比較し、理学療法の問題点抽出、統合と解釈、ゴール設定をさらに追求し自己学習の基、治療につなげるよう討議する。 ディスカッション形式で個々の発言を促す。</p>	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 課題設定</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>	<p>症例発表、ディスカッション</p>
履修上の注意	<p>ディスカッションの場であるため、活発な意見交換を行ってください</p>	
成績評価	<p>出席状況・講義態度・レジュメなど総合的に判断する。 単位認定者：松井</p>	
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>適宜資料を配布する</p>	

講義名	理学療法評価法実習Ⅱ	
講師名	松井有史（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 2単位. 60時間（講義・実習）	
講義目標	<p>学内教育と臨床評価実習を経て学んだことを比較し、理学療法の問題点抽出、統合と解釈、ゴール設定をさらに追求し自己学習の基、治療につなげるよう討議する。 ディスカッション形式で個々の発言を促す。</p>	
授業計画	第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回 第30回 まとめ	       実習実技・PBL （担当症例（画像情報利用）を用いて行う）
履修上の注意	ディスカッションの場であるため、活発な意見交換を行ってください	
成績評価	出席状況・講義態度・レジュメなど総合的に判断する。 単位認定者：松井	
テキスト	参考図書. その他	
	適宜資料を配布する	

講義名	運動動作分析学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	本講義では、運動学、臨床運動学の講義を踏まえ、運動を分析するために必要な動作観察を理解する。特にこの動作観察は理学療法評価において非常に重要な手法である。この講義では基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位、立位、歩行）に焦点をあて、動作観察を文章表現、口頭表現できることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 動作観察とは 分析とは</p> <p>第2回 動作観察・分析の進め方（体験）</p> <p>第3回 運動力学</p> <p>第4回 運動力学</p> <p>第5回 動作観察の記載方法</p> <p>第6回 寝返り・起き上がりの運動分析 II</p> <p>第7回 寝返り・起き上がりの運動分析 III</p> <p>第8回 立ち上がりの運動分析 I</p> <p>第9回 立ち上がりの運動分析 II</p> <p>第10回 歩行の運動分析 I</p> <p>第11回 歩行の運動分析 II</p> <p>第12回 歩行の運動分析 III</p> <p>第13回 歩行の運動分析 IV</p> <p>第14回 中間テスト</p> <p>第15回 各疾患の運動分析 総論</p>
履修上の注意	実技を伴う講義であります。自ら理解し、自ら表出することがこの講義の理解を深める上で大切です。積極的に講義に取り組むとともに運動学的知識をもう一度整理するように心がけてください。 28～30回はパソコンが必要です
成績評価	中間試験3回と期末試験にて総合的に判断する 単位認定：松井 有史
テキスト	参考図書. その他
	<p>上杉雅之 実践！動作分析 医歯薬出版</p> <p>観察による歩行分析 Kirsten Gotz-Neumann 医学書院</p> <p>動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー</p>

講義名	運動動作分析学
講師名	松井 有史（実務家教員）
学年・期	3年前期. 2単位. 60時間（講義）
講義目標	本講義では、運動学、臨床運動学の講義を踏まえ、運動を分析するために必要な動作観察を理解する。特にこの動作観察は理学療法評価において非常に重要な手法である。この講義では基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位、立位、歩行）に焦点をあて、動作観察を文章表現、口頭表現できることを目標とする。
授業計画	<p>第16回 整形外科疾患の動作分析</p> <p>第17回 整形外科疾患の動作分析</p> <p>第18回 整形外科疾患の動作分析</p> <p>第19回 整形外科疾患の動作分析</p> <p>第20回 整形外科疾患の動作分析</p> <p>第21回 中間試験</p> <p>第22回 脳血管障害の動作分析</p> <p>第23回 脳血管障害の動作分析</p> <p>第24回 脳血管障害の動作分析</p> <p>第25回 脳血管障害の動作分析</p> <p>第26回 脳血管障害の動作分析</p> <p>第27回 中間試験</p> <p>第28回 動作分析文章ワーク1</p> <p>第29回 動作分析文章ワーク2</p> <p>第30回 動作分析文章ワーク3</p>
履修上の注意	実技を伴う講義であります。自ら理解し、自ら表出することがこの講義の理解を深める上で大切です。積極的に講義に取り組むとともに運動学的知識をもう一度整理するように心がけてください。 28～30回はパソコンが必要です
成績評価	中間試験3回と期末試験にて総合的に判断する 単位認定：松井 有史
参考図書. その他	<p>上杉雅之 実践！動作分析 医歯薬出版</p> <p>観察による歩行分析 Kirsten Gotz-Neumann 医学書院</p> <p>動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー</p>

講義名	運動療法学A
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 90時間（講義）
講義目標	運動療法Aは関節可動域訓練に必要な基礎知識を習得する。関節可動域の獲得、関節包内運動の基本的な知識を治療技術に結び付け理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 運動療法総論</p> <p>第2回 関節可動域運動 総論</p> <p>第3回 関節可動域運動 総論</p> <p>第4回 関節可動域運動 関節可動域の制限因子</p> <p>第5回 関節可動域運動 拘縮について</p> <p>第6回 関節可動域運動 骨運動と関節包内運動について</p> <p>第7回 関節可動域運動 骨運動と関節包内運動について</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 関節運動学総論</p> <p>第10回 関節運動学に基づいた関節可動域訓練</p> <p>第11回 各論上肢肩・肘・手関節の関節可動域訓練</p> <p>第12回 各論上肢肩・肘・手関節の関節可動域訓練</p> <p>第13回 各論下肢股・膝・足関節の関節可動域訓練</p> <p>第14回 各論下肢股・膝・足関節の関節可動域訓練実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。実技を伴う講義です。運動ができる服装を用意してください。なお、運動療法学の単位取得の条件は、各担当講師の試験において、それぞれ60点以上を取得することとする。
成績評価	出席状況, 単元確認テスト, 定期末試験を総合して判断します。
テキスト	参考図書. その他
	運動療法学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト ト

講義名	運動療法学B
講師名	河西 紀秀（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 90時間（講義）
講義目標	運動療法に必要な基礎知識を習得する。エビデンスを踏まえた筋力トレーニングの基礎知識を理解し、各疾患への応用を図る。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 筋収縮メカニズム</p> <p>第3回 トレーニングの3大原理</p> <p>第4回 筋力強化と骨格筋の形状</p> <p>第5回 筋肥大・筋委縮・筋疲労</p> <p>第6回 OKC・CKCの違いについて（実技含む）</p> <p>第7回 運動療法におけるリスク管理</p> <p>第8回 筋・筋持久力の改善プログラム①</p> <p>第9回 筋・筋持久力の改善プログラム②</p> <p>第10回 筋力トレーニングのエビデンス</p> <p>第11回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（腰痛）</p> <p>第12回 各疾患における筋力トレーニングのあり方膝（膝OA）</p> <p>第13回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）①</p> <p>第14回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）②</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。なお、運動療法学の単位取得の条件は、各担当講師の試験において、それぞれ60点以上を取得することとする。
成績評価	定期末試験を総合して判断します。
テキスト	参考図書. その他
標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論	運動療法学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト
プリント配布	必要に応じて書籍を紹介

講義名	運動療法学C
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期. 1/3単位. 30/90時間（講義）
講義目標	運動療法に必要な基礎知識を習得する。筋力増強エクササイズ、関節可動域の獲得、動作の修正など基本的な内容とする。理学療法プログラムの作成に向けての基本的な考え方を習得する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 随意運動と運動制御モデル① 第3回 随意運動と運動制御モデル② 第4回 随意運動と運動制御モデル③ 第5回 運動制御と運動学習① 第6回 運動制御と運動学習② 第7回 運動制御と運動学習③ 第8回 運動と呼吸① 第9回 運動と呼吸② 第10回 運動と呼吸③ 第11回 運動と循環① 第12回 運動と循環② 第13回 運動と代謝① 第14回 運動と代謝② 第15回 呼気ガス分析
履修上の注意	専門的な講義になりますので、基礎知識を自己学習で補ってください。
成績評価	単位取得要件として、学科試験60点以上とする。試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定：福井直樹
テキスト	参考図書. その他 標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論

講義名	物理療法学	
講師名	小忞武陸（実務家教員）	
学年・期	2年前期. 1/2単位. 30/60時間（通年・講義）	
講義目標	グループ活動を基本とした各種物理療法機器を用いたグループワークを通して、各種物理療法が生体に与える影響、および各疾患への適応と効果について体得する。	
授業計画	第1回 物理療法の歴史と今後の課題・展望（総論） 第2回 物理療法の歴史と今後の課題・展望（各論） 第3回 光線療法の特徴と皮膚の生理機能Ⅰ 第4回 光線療法の特徴と皮膚の生理機能Ⅱ 第5回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅰ 第6回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅱ 第7回 熱物理学・温熱の生理学的作用Ⅲ 第8回 寒冷療法の特徴と生理学的作用 第9回 水の物理学的特徴と生理学的作用 第10回 牽引療法の特徴と生理学的作用 第11回 電気療法の原理と生理学的作用Ⅰ 第12回 電気療法の原理と生理学的作用Ⅱ 第13回 マッサージ療法 第14回 物理療法におけるリスク管理 第15回 総括まとめ	
履修上の注意	特になし	
成績評価	出席点20%、小テスト20%、本試験60%	単位認定者：小忞
テキスト	参考図書、その他	
	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 医学書院	

講義名	物理療法学	
講師名	小忞武陸（実務家教員）	
学年・期	2年後期. 1/2単位. 30/60時間（通年・講義）	
講義目標	グループ活動を基本とした各種物理療法機器を用いたグループワークを通して、各種物理療法が生体に与える影響、および各疾患への適応と効果について体得する。	
授業計画	第16回 物理療法学の復習とグループ演習の発表 第17回 各実習テーマの概要説明 第18回 各実習の演習Ⅰ 第19回 各実習の演習Ⅱ 第20回 グループ実習Ⅰ 第21回 グループ実習Ⅰ 第22回 グループ実習Ⅱ 第23回 グループ実習Ⅱ 第24回 グループ実習Ⅲ 第25回 グループ実習Ⅲ 第26回 グループ実習Ⅳ 第27回 グループ実習Ⅳ 第28回 グループ実習Ⅴ 第29回 グループ実習Ⅴ 第30回 まとめ	
履修上の注意	特になし	
成績評価	出席点20%、小テスト20%、本試験60%	単位認定者：小忞
テキスト	参考図書、その他	
	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 医学書院	

講義名	義肢装具学Ⅰ
講師名	松田 宏務（実務家教員）
学年・期	2年後期，1単位，30時間（講義）
講義目標	<p>上肢・下肢の解剖と運動機能の知識を再確認し、切断と義肢に関する基礎知識を理解する。          そして、切断者の評価・治療・生活指導にわたる理学療法が行えるように学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 総論（切断について・切断原因・合併症・切断部位・切断手技）          第2回 術前評価・治療          第3回 術後断端管理          第4回 義肢の処方（義足の構造と種類）          第5回 義足の処方（義足ソケットの適応）          第6回 義足適合判定（ベンチ・アライメントのチェック）          第7回 義足装着訓練（スタティック・アライメントのチェック）          第8回 歩行評価（ダイナミック・アライメントのチェック）          第9回 歩行練習          第10回 日常生活活動練習          第11回 下腿義足          第12回 大腿義足          第13回 股義足・特殊義足          第14回 前腕義手・上腕義手          第15回 まとめ</p>
履修上の注意	講義、演習を行う。DVDなどで実際の臨床をみる。
成績評価	期末試験、出席状況を総合して判断する。単位認定者：松田宏務
テキスト	<p>義肢学 澤村誠志 編/医歯薬出版          義肢学装具学 川村次郎 編/医学書院</p> <p style="text-align: center;">参考図書，その他</p>

講義名	義肢装具学Ⅱ
講師名	松田宏務（実務家教員）
学年・期	3年生前期 1単位 30時間
講義目標	装具の種類とその構造、目的と適応を理解し、適合判定や理学療法の中で有効的に活用できるための知識と技術を学ぶ。また、装具採型過程について実技体験を交え、理解を深める。
授業計画	<p>第1回 装具学 総論（分類・処方・装具支給体系など）</p> <p>第2回 靴型装具 総論（足の構造と機能）</p> <p>第3回 靴型装具 整形外科靴（靴の補正）</p> <p>第4回 下肢装具 総論</p> <p>第5回 下肢装具 足底装具 短下肢装具1</p> <p>第6回 下肢装具 短下肢装具2（片麻痺患者の短下肢装具）</p> <p>第7回 下肢装具 長下肢装具 坐骨支持免荷装具</p> <p>第8回 下肢装具 膝装具 股装具</p> <p>第9回 下肢装具 対麻痺装具 先天性疾患の装具</p> <p>第10回 体幹装具 総論</p> <p>第11回 体幹装具 頸椎装具 頸胸椎装具 胸腰仙椎装具</p> <p>第12回 体幹装具 腰仙椎装具 側弯矯正装具</p> <p>第13回 上肢装具 総論</p> <p>第14回 上肢装具 指・手関節のアプローチ 対立装具 肘装具 肩装具</p> <p>第15回 座位保持装置 車いす 日常生活用具など</p>
履修上の注意	講義・演習を行う。DVDなどで実際の臨床をみる。
成績評価	<p>期末試験、レポート、授業態度、出席状況を総合して判断する。</p> <p>単位認定者：松田宏務</p>
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>「装具学」加倉井周一 編 医歯薬出版</p> <p>「装具治療マニュアル」加倉井周一 編 医歯薬出版</p> <p>「義肢装具学」川村次郎 編 医学書院</p>

講義名	日常生活動作学
講師名	新家寿貴（実務家教員）
学年・期	3年前期. 1単位. 30時間
講義目標	理学療法士としてだけでなく、多角的な視点からADLについて考慮する力を養う。
授業計画	第1回 ADLの理解と範囲① 第2回 ADLの理解と範囲② 第3回 ADLの理解と範囲③ 第4回 日常生活の評価① 第5回 日常生活の評価② 第6回 基本動作とADL① 第7回 基本動作とADL② 第8回 基本動作とADL③ 第9回 基本動作とADL④ 第10回 基本動作とADL⑤ 第11回 基本動作とADL⑥ 第12回 疾患とADL 第13回 複合動作指導 第14回 リハビリテーション支援機器 第15回 まとめ
履修上の注意	実技も行いながらの進行となるので、できるだけ動きやすい服装を心がけてください。疑問等があればその場で質問してもらい、教室全体で共有し、解決したいと思います。
成績評価	授業態度、定期試験の結果により評価する。
テキスト	参考図書. その他 日常生活活動（ADL） 神陵文庫

講義名	日常生活動作学実習
講師名	新家 寿貴（実務家教員）
学年・期	3年後期. 1/1単位. 30時間
講義目標	理学療法士としてだけでなく、多角的な視点からADLについて考慮する力を養う。
授業計画	第1回 基本動作とADL① 第2回 基本動作とADL② 第3回 基本動作とADL③ 第4回 基本動作とADL④ 第5回 基本動作とADL⑤ 第6回 基本動作とADL⑥ 第7回 基本動作とADL⑦ 第8回 基本動作とADL⑧ 第9回 中枢神経・神経筋疾患 第10回 呼吸・循環障害 第11回 骨・関節疾患 第12回 老年期の障害 第13回 その他の障害 第14回 地域リハビリテーション 第15回 まとめ
履修上の注意	実技を行いながらの進行となるので、できるだけ動きやすい服装を心がけてください。疑問等があれば、その場で質問してもらい、教室全体で共有し、解決したいと考えています。
成績評価	授業態度、出席状況、定期試験の結果により評価する。単位認定者；新家寿貴
テキスト	参考図書. その他 日常生活活動（ADL） 神陵文庫

講義名	小児理学療法学	
講師名	林 勝彦（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	小児理学療法学は脳の障害を中心に行う。特に子供の特徴である発達障害を持って異常な発達となる。そのために、脳の障害によりその障害にも特徴があることを学んでもらい、治療により正常な発達に近づけるにはどのような視点が必要か学んでもらいたい。	
授業計画	第1回 小児リハビリテーション概論① 第2回 小児リハビリテーション概論② 第3回 脳性麻痺総論① 第4回 脳性麻痺総論② 第5回 胎児からの発達と新生児医療① 第6回 胎児からの発達と新生児医療② 第7回 痙直型両麻痺児① 第8回 痙直型両麻痺児② 第9回 アテトーゼ型四肢麻痺① 第10回 アテトーゼ型四肢麻痺② 第11回 痙直型片麻痺① 第12回 痙直型片麻痺② 第13回 重症児① 第14回 重症児② 第15回 まとめ	
履修上の注意	講義と演習	
成績評価	試験と提出物により判定する。	単位認定者：林
テキスト	参考図書. その他	
	プリントを配布します	

講義名	スポーツ理学療法学
講師名	河西紀秀（実務家教員）
学年・期	3年前期. 1単位. 30時間
講義目標	スポーツ理学療法について理解する 競技特性を考慮したリハビリテーションプログラムの作成ができるようになる 医療現場からスポーツ競技復帰などについて理解する
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 スポーツ理学療法の内容および競技復帰までの流れ</p> <p>第3回 スポーツ外傷・障害の発生メカニズム</p> <p>第4回 スポーツ外傷・障害の評価</p> <p>第5回 まとめ（前半）</p> <p>第6回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第7回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第8回 各論 下肢 発表形式</p> <p>第9回 各論 体幹 発表形式</p> <p>第10回 各論 上肢 発表形式</p> <p>第11回 投球障害 講義・実技</p> <p>第12回 アスレティックリハビリテーション 実技（競技特性を考慮）</p> <p>第13回 アスレティックリハビリテーション 実技</p> <p>第14回 テーピング</p> <p>第15回 まとめ（後半）</p>
履修上の注意	講義はパワーポイントを使います。実技は運動可能な服装が好ましい。
成績評価	授業参加。グループ発表の内容及び定期試験の結果を踏まえて評価します。 単位認定者：河西紀秀
テキスト	参考図書. その他
プリント配布	必要に応じ随時紹介する
	関連した文献の配布

講義名	疾患別理学療法学Ⅰ（心大血管リハビリテーション分野）		
講師名	高橋賢一（実務家教員） 松浦邦樹（実務家教員）		
学年・期	3年後期. 2/2単位. 60時間		
講義目標	心臓リハビリテーションを学ぶ 運動における生体反応を理解する 循環器疾患における運動療法・処方の基礎を学ぶ		
授業計画	第1回	心臓リハビリテーションの概要①	高橋
	第2回	心臓リハビリテーションの概要②	高橋
	第3回	解剖・生理	高橋
	第4回	心疾患の検査	高橋
	第5回	心疾患の病態①（X線画像診断）	高橋
	第6回	心疾患の病態②（CT/MRI画像診断）	高橋
	第7回	リスク層別化①	高橋
	第8回	リスク層別化②	高橋
	第9回	バイタルサイン①	高橋
	第10回	バイタルサイン②	高橋
	第11回	運動生理①	松浦
	第12回	運動生理②	松浦
	第13回	運動負荷試験①	松浦
	第14回	運動負荷試験②	松浦
	第15回	心電図①	松浦
履修上の注意	理学療法士としての大きな分野の一つです。予習復習はしっかりと行ってください。		
成績評価	期末試験 小テスト 提出物 出席状況を総合して判断する。		
テキスト	参考図書. その他		
	標準理学療法学 内部障害理学療法学 医学書院		循環器理学療法の理論と技術 メジカルビュー

講義名	疾患別理学療法学Ⅰ（心大血管リハビリテーション分野）		
講師名	高橋賢一（実務家教員） 松浦邦樹（実務家教員）		
学年・期	3年後期. 2/2単位. 60時間		
講義目標	心臓リハビリテーションを学ぶ 運動における生体反応を理解する 循環器疾患における運動療法・処方の基礎を学ぶ		
授業計画	第16回 心電図②		松浦
	第17回 実習（CPX）①		松浦
	第18回 実習（CPX）②		松浦
	第19回 運動療法 処方①		松浦
	第20回 運動療法 処方②		松浦
	第21回 虚血性心疾患のリハビリテーション①		高橋
	第22回 虚血性心疾患のリハビリテーション②		高橋
	第23回 虚血性心疾患のリハビリテーション③		高橋
	第24回 虚血性心疾患のリハビリテーション④		高橋
	第25回 心不全のリハビリテーション①		高橋
	第26回 心不全のリハビリテーション②		高橋
	第27回 心臓外科術後のリハビリテーション①		松浦
	第28回 心臓外科術後のリハビリテーション②		松浦
	第29回 末梢動脈疾患のリハビリテーション①		松浦
	第30回 末梢動脈疾患のリハビリテーション②		松浦
履修上の注意	理学療法士としての大きな分野の一つです。予習復習はしっかりと行ってください。		
成績評価	期末試験 小テスト 提出物 出席状況を総合して判断する。		
テキスト	参考図書. その他		
	標準理学療法学 内部障害理学療法学 医学書院	循環器理学療法の理論と技術	メジカルビュー

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（運動器リハビリテーション分野）（通年）
講師名	鍋嶋崇之（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 2/3単位. 60/90時間
講義目標	運動器疾患の評価～治療のプロセスを理解する 疾患別の理学療法を考え初歩的テクニックを学ぶ
授業計画	<p>第1回 運動器疾患の理学療法について①(運動器とは)</p> <p>第2回 運動器疾患の理学療法について②(運動器とは)</p> <p>第3回 運動器疾患の理学療法について③(関節可動域制限)</p> <p>第4回 運動器疾患の理学療法について④(筋力とは)</p> <p>第5回 運動器疾患の理学療法について⑤(痛み)</p> <p>第6回 運動器疾患の理学療法について⑥(てこ)</p> <p>第7回 肩の理学療法①(肩関節の特徴)</p> <p>第8回 肩の理学療法②(肩関節周囲炎)</p> <p>第9回 肩の理学療法③(腱板断裂)</p> <p>第10回 肩の理学療法④(上腕骨の骨折)</p> <p>第11回 運動器疾患のとりえ方①組織別</p> <p>第12回 運動器疾患のとりえ方②効率から制御と学習</p> <p>第13回 頸部疾患の理学療法①(頸部運動の特徴)</p> <p>第14回 頸部疾患の理学療法②(頸部脊柱管狭窄症, ヘルニア)</p> <p>第15回 腰部疾患の理学療法①(腰痛とは何か)</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ 前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 授業態度も評価とする。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。前期単位認定：鍋嶋
テキスト	参考図書. その他
特になし	運動器疾患の理学療法 神陵文庫

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（運動器リハビリテーション分野）（通年）
講師名	鍋嶋崇之（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）、2/3単位、60/90時間
講義目標	運動器疾患の評価～治療のプロセスを理解する 疾患別の理学療法を考え初歩的テクニックを学ぶ
授業計画	<p>第16回 腰部疾患の理学療法②(脊柱管狭窄症，ヘルニア)</p> <p>第17回 腰部疾患の理学療法③(円背，その他腰部疾患)</p> <p>第18回 股関節疾患の理学療法①(股関節の特徴)</p> <p>第19回 股関節疾患の理学療法②(変形性股関節症)</p> <p>第20回 股関節疾患の理学療法③(THA)</p> <p>第21回 股関節疾患の理学療法④(大腿骨頸部骨折)</p> <p>第22回 膝関節疾患の理学療法①(膝関節の特徴)</p> <p>第23回 膝関節疾患の理学療法②(変形性膝関節症)</p> <p>第24回 膝関節疾患の理学療法③(TKA)</p> <p>第25回 膝関節疾患の理学療法④(ACL損傷)</p> <p>第26回 足関節疾患の理学療法①(足関節の特徴)</p> <p>第27回 足関節疾患の理学療法②(足関節捻挫)</p> <p>第28回 足関節疾患の理学療法③(その他足関節疾患)</p> <p>第29回 運動器リハまとめ①</p> <p>第30回 運動器リハまとめ②</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ 前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 授業態度も評価とする。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。前期単位認定：鍋嶋
テキスト	参考図書、その他
特になし	運動器疾患の理学療法 神陵文庫

講義名	疾患別理学療法学Ⅱ（呼吸リハビリテーション分野）	
講師名	辻 宏（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1/3単位. 30時間（講義）	
講義目標	呼吸器障害の概論を理解する 呼吸リハビリテーションの理論と技術を理解し、臨床応用できる基礎を学習する	
授業計画	<p>第31回 呼吸リハビリテーションの総論</p> <p>第32回 基礎知識(正常機能)</p> <p>第33回 基礎知識(病態)</p> <p>第34回 評価①</p> <p>第35回 評価②</p> <p>第36回 ADL評価と実際</p> <p>第37回 呼吸リハビリテーション概論</p> <p>第38回 運動療法</p> <p>第39回 コンディショニング</p> <p>第40回 COPDに対する呼吸リハビリテーション</p> <p>第41回 ALSに対する呼吸リハビリテーション</p> <p>第42回 排痰における呼吸リハビリテーション</p> <p>第43回 吸引について</p> <p>第44回 吸引の実践について</p> <p>第45,46回 実技：呼吸介助手段①、実技：呼吸介助手段②</p>	承認印
履修上の注意	呼吸に関する解剖学や生理学はしっかり把握しておいてください。	
成績評価	疾患別理学療法学Ⅱ前期・後期 それぞれ60点以上で単位取得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。後期単位認定： 辻	
テキスト	参考図書. その他	
	動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版 中山書店	必要に応じ適宜紹介する

講義名	疾患別理学療法学Ⅲ A(脳血管障害分野)
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 1/3単位. 30/90時間（講義・実習）
講義目標	脳血管障害患者に対して行う中枢神経系理学療法は非常に多岐にわたり，解剖学的な知識，障害像の把握，臨床推論能力が必要となります。 本講義では，より幅広い知識に基づいて中枢神経系理学療法が施行できるようにします。
授業計画	<p>第1回 中枢神経系理学療法の基礎知識</p> <p>第2回 運動と感覚の中枢機能と構造</p> <p>第3回 脳損傷の定義と病態</p> <p>第4回 脳の損傷とその回復</p> <p>第5回 脳血管障害における医学管理</p> <p>第6回 脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ</p> <p>第7回 脳血管障害後方麻痺患者の運動障害の特徴</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(1)</p> <p>第10回 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(2)</p> <p>第11回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(1)</p> <p>第12回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(2)</p> <p>第13回 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(3)</p> <p>第14回 脳血管障害における合併症</p> <p>第15回 高次脳機能障害と理学療法</p>
履修上の注意	脳の解剖学や生理学は事前に予習しておいてください。
成績評価	疾患別理学療法学ⅢA・B・C それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。 認定者：福井
テキスト	参考図書. その他
	<p>理学療法テキスト</p> <p>神経障害理学療法学I 中山書店</p> <p>神経障害理学療法学II 中山書店</p>

講義名	疾患別理学療法学Ⅲ B（脳血管障害分野）
講師名	笠井 正（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）. 1/3単位. 30/90時間（講義・実習）
講義目標	脳血管障害患者に対して行う中枢神経系理学療法は非常に多岐にわたり，解剖学的な知識，障害像の把握，臨床推論能力が必要となります。 本講義では，より幅広い知識に基づいて中枢神経系理学療法が施行できるようにします。
授業計画	<p>第16回 脳の構造と機能（大脳基底核の役割）</p> <p>第17回 パーキンソン病の症状と病態生理 1</p> <p>第18回 パーキンソン病の症状と病態生理 2</p> <p>第19回 パーキンソン病に対する評価 1</p> <p>第20回 パーキンソン病に対する評価 2、治療 1</p> <p>第21回 パーキンソン病のリハと理学療法</p> <p>第22回 PD（パーキンソン病）の事例、中枢性における難病患者のリハ</p> <p>第23回 運動失調症のリハビリテーションと理学療法</p> <p>第24回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ①</p> <p>第25回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ②</p> <p>第26回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ③</p> <p>第27回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ④</p> <p>第28回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑤</p> <p>第29回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑥</p> <p>第30回 運動療法のリスク管理 -内部障害を中心に- ⑦</p>
履修上の注意	予習復習はしっかり行ってください
成績評価	疾患別理学療法学Ⅲ A・B・C それぞれ60点以上で単位取得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。認定者：福井
テキスト	参考図書. その他
	<p>理学療法テキスト</p> <p>神経障害理学療法学I 中山書店</p> <p>神経障害理学療法学II 中山書店</p>

講義名	疾患別理学療法学ⅢC（脳血管障害分野）	通年
講師名	松井 有史（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1/3単位. 30/90時間（講義）	
講義目標	脳血管障害における治療の流れを理解し、理学療法士としての仕事について把握する。 （ゴール設定、治療方法、リスク管理、予後予測等の理学療法士としての知識・技術の習得）	
授業計画	第1回 オリエンテーション	松井
	第2回 問題点抽出1	松井
	第3回 問題点抽出2	松井
	第4回 問題点抽出3	松井
	第5回 問題点抽出4	松井
	第6回 問題点抽出5	松井
	第7回 問題点抽出6	松井
	第8回 脳卒中の理学療法1	上西
	第9回 脳卒中の理学療法2	上西
	第10回 脳卒中の理学療法3	上西
	第11回 脳卒中の理学療法4	上西
	第12回 脳卒中の理学療法5	上西
	第13回 脳卒中の理学療法6	上西
	第14回 脳卒中の理学療法7	上西
	第15回 脳卒中の理学療法8	上西
履修上の注意	「脳卒中の理学療法」は実技を行う場合があるので、動きやすい服装を準備すること	
成績評価	疾患別理学療法学ⅢA・B・C それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（A/B/Cとも単一単位扱いとする） ただし、成績評価はA/B/Cの平均点にて評価する。 また、A/B/Cのいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。	
テキスト	参考図書. その他	
	毎回、プリントを配布します	

講義名	疾患別理学療法Ⅳ				
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)				
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間 (講義)				
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。				
授業計画	第1回	国家試験対策	1	模試	松井
	第2回	国家試験対策	2	模試	松井
	第3回	国家試験対策	3	模試	松井
	第4回	国家試験対策	4	模試	松井
	第5回	国家試験対策	5	模試	松井
	第6回	国家試験対策	6	模試	松井
	第7回	国家試験対策	7	模試	松井
	第8回	国家試験対策	8	模試	松井
	第9回	国家試験対策	9	模試	松井
	第10回	国家試験対策	10	模試	松井
	第11回	国家試験対策	11	模試	松井
	第12回	国家試験対策	12	模試	松井
	第13回	国家試験対策	13	模試	松井
	第14回	国家試験対策	14	模試	松井
	第15回	国家試験対策	15	模試	松井
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です				
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史				
テキスト	参考図書. その他				
	適宜プリント配布する				

講義名	疾患別理学療法Ⅳ				
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)				
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間 (講義)				
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。				
授業計画	第16回	国家試験対策	1 6	模試	松井
	第17回	国家試験対策	1 7	模試	松井
	第18回	国家試験対策	1 8	模試	松井
	第19回	国家試験対策	1 9	模試	松井
	第20回	国家試験対策	2 0	模試	松井
	第21回	国家試験対策	2 1	模試	松井
	第22回	国家試験対策	2 2	模試	松井
	第23回	国家試験対策	2 3	模試	松井
	第24回	国家試験対策	2 4	模試	松井
	第25回	国家試験対策	2 5	模試	松井
	第26回	国家試験事前オリエンテーション			松井
	第27回	褥瘡 1			北出
	第28回	褥瘡 2			北出
	第29回	褥瘡 3			北出
	第30回	褥瘡 4			北出
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です				
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史				
テキスト	参考図書. その他				
	適宜プリント配布する				

講義名	疾患別理学療法Ⅳ		
講師名	松井 有史 ・ 岩田 由明 ・ 高根 良輔 ・ 北出 貴則 (全員実務家教員)		
学年・期	4年後期. 3単位. 90時間 (講義)		
講義目標	現在行われている疾患別診療と違い、理学療法は疾患別の枠を超えて患者と接する。そのため、総合的な知識を必要とする。この講義では国家試験合格を目標に様々な疾患を総合的に考え、理学療法の実践を中心に教授する。		
授業計画	第31回 リンパ 浮腫 1		岩田
	第32回 リンパ 浮腫 2		岩田
	第33回 リンパ 浮腫 3		岩田
	第34回 リンパ 浮腫 4		岩田
	第35回 リンパ 浮腫 5		岩田
	第36回 リンパ 浮腫 6		岩田
	第37回 リンパ 浮腫 7		岩田
	第38回 リンパ 浮腫 8		岩田
	第39回 癌リハビリテーション 1		高根
	第40回 癌リハビリテーション 2		高根
	第41回 癌リハビリテーション 3		高根
	第42回 癌リハビリテーション 4		高根
	第43回 国家試験直前オリエンテーション		松井
	第44回 和歌山県の理学療法士について 1		松井
	第45回 和歌山県の理学療法士について 2		松井
履修上の注意	範囲が大きいため、事前の自習が必要です		
成績評価	国家試験対策を前提とし、模試結果から総合的に判定をする。 単位認定者：松井有史		
テキスト	参考図書. その他		
	適宜プリント配布する		

講義名	理学療法技術論 I
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期，2単位，60時間（講義）
講義目標	理学療法を展開するためには，疾患に応じた評価を理解し，その技術を習得することは必須である。本講義では筋緊張検査，協調性検査，片麻痺機能検査の一部を理解し，検査技術の向上を図ることを目的とする。
授業計画	第1回 総論 第2回 感覚検査 第3回 感覚伝導路① 第4回 感覚伝導路② 第5回 表在感覚① 第6回 表在感覚② 第7回 深部感覚① 第8回 深部感覚② 第9回 複合感覚 第10回 感覚検査まとめ 第11回 反射 第12回 深部腱反射 第13回 表在反射 第14回 病的反射 第15回 片麻痺機能検査総論
履修上の注意	実技を伴う講義では，運動可能な服装を用意してください。
成績評価	OSCE，定期試験と出席状況により判断する。 単位取得要件として，OSCE60点以上かつ学科試験60点以上とする。総成績評価において60点以上であったとしても，OSCEもしくは学科試験等の一方が60点未満である場合は単位を認めない。定期試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書，その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイパック

講義名	理学療法技術論 I
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	2年後期，2単位，60時間（講義）
講義目標	理学療法を展開するためには，疾患に応じた評価を理解し，その技術を習得することは必須である。本講義では筋緊張検査，協調性検査，片麻痺機能検査の一部を理解し，検査技術の向上を図ることを目的としている。
授業計画	<p>第16回 片麻痺機能検査・・・Brunnstrom Recovery Stage Test ①</p> <p>第17回 片麻痺機能検査・・・Brunnstrom Recovery Stage Test ②</p> <p>第18回 筋緊張検査①</p> <p>第19回 筋緊張異常②</p> <p>第20回 実技練習①</p> <p>第21回 実技練習②</p> <p>第22回 実技練習③</p> <p>第23回 実技練習④</p> <p>第24回 片麻痺機能検査・・・上田による13段階法 ①</p> <p>第25回 片麻痺機能検査・・・上田による13段階法 ②</p> <p>第26回 協調性検査①</p> <p>第27回 協調性検査②</p> <p>第28回 協調性検査③</p> <p>第29回 協調性検査④</p> <p>第30回 まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では，運動可能な服装を用意してください。
成績評価	OSCE，定期試験と出席状況により判断する。 単位取得要件として，OSCE60点以上かつ学科試験60点以上とする。総成績評価において60点以上であったとしても，OSCEもしくは学科試験等の一方が60点未満である場合は単位を認めない。定期試験には指定用紙(A4手書き)のみ持ち込みを認める。単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書，その他
	臨床理学療法評価法 監修者 鈴木俊明 アイパック

講義名	理学療法技術論Ⅱ (通年)
講師名	福井直樹 (実務家教員)
学年・期	3年前期 (通年) . 1/2単位. 30/60 時間 (講義)
講義目標	科学的根拠に基づく介入が強調される昨今において、適切な機能帰結を用いた帰結評価が不可欠である。本講義では、標準的な評価指標を学ぶとともに、介入効果を検証できる能力を獲得することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 臨床評価について (概論)</p> <p>第2回 最大歩行速度</p> <p>第3回 Functional Reach test</p> <p>第4回 Timed"Up and Go" test</p> <p>第5回 6分間歩行距離</p> <p>第6回 漸増シャトルウォーキングテスト</p> <p>第7回 Mini Mental State Examination・長谷川式簡易知能評価スケール</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 機能的バランス指標</p> <p>第10回 痛みの評価 (VAS, NRS, 簡略版マクギル疼痛質問票)</p> <p>第11回 fugl-meyer scale (上肢)</p> <p>第12回 fugl-meyer scale (下肢・バランス・感覚)</p> <p>第13回 高次脳機能障害に関わる評価指標</p> <p>第14回 バーセルインデックス・機能的自立度評価表</p> <p>第15回 SF-36, SF-8, 生活満足度尺度</p>
履修上の注意	グループ学習、実技試験などでは講義時間以外に治療室などを使用し、自主学習に取り組んでください。
成績評価	前期の中間試験と期末試験で(60点以上)。後期のOSCE(60点以上)により判断する。
テキスト	<p>単位認定者：福井直樹</p> <p>参考図書. その他</p> <p>臨床評価指標入門 初版 協同医書出版社      リハビリテーションにおける評価法ハンドブック 第1版 医歯薬出版</p> <p>臨床理学療法評価法 第1版 アイバック</p>

講義名	理学療法技術論Ⅱ
講師名	福井直樹（実務家教員）
学年・期	3年後期（通年）. 1/2単位. 30/60 時間（講義）
講義目標	科学的根拠に基づく介入が強調される昨今において、適切な機能帰結を用いた帰結評価が不可欠である。本講義では、標準的な評価指標を学ぶとともに、介入効果を検証できる能力を獲得することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 臨床評価実習反省会</p> <p>第2回 理学療法評価について(復習)</p> <p>第3回 stroke impairment assessment set(SIAS)①</p> <p>第4回 stroke impairment assessment set(SIAS)②</p> <p>第5回 stroke impairment assessment set(SIAS)③</p> <p>第6回 functional independence measure(FIM)①</p> <p>第7回 functional independence measure(FIM)②</p> <p>第8回 functional independence measure(FIM)③</p> <p>第9回 クリニカルリーズニングとは</p> <p>第10回 クリニカルリーズニングの実践(グループ)</p> <p>第11回 クリニカルリーズニングの実践(個人)</p> <p>第12回 OSCE(出題内容通知)</p> <p>第13回 OSCE予習</p> <p>第14回 OSCE予習</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	グループ学習、実技試験などでは講義時間以外に治療室などを使用し、自主学習に取り組んでください。
成績評価	前期末の定期試験(60点以上)、後期末のOSCE(60点以上)により判断する。 単位認定者：福井直樹
テキスト	参考図書. その他 脳卒中患者の機能評価SIASとFIMの実際 金原出版

講義名	理学療法技術論Ⅲ（通年）
講師名	浅見 岳志（実務家教員）
学年・期	3年前期（通年）、1/2単位、30/60時間（講義・実技）
講義目標	Proprioceptive neuromuscular facilitation（PNF）の基本的な理論・技術を学ぶことを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・PNFの歴史・哲学</p> <p>第2回 生理学的基本原理，基本手順</p> <p>第3回 パターン，テクニックについて①</p> <p>第4回 パターン，テクニックについて②</p> <p>第5回 パターン，テクニックについて③</p> <p>第6回 デモンストレーション（実際の患者のVTR）①</p> <p>第7回 パターン，テクニックについて④</p> <p>第8回 パターン，テクニックについて⑤</p> <p>第9回 マット，アクティビティについて</p> <p>第10回 デモンストレーション（実際の患者のVTR）②</p> <p>第11回 歩行について</p> <p>第12回 評価，治療計画について</p> <p>第13回 グループワーク①</p> <p>第14回 グループワーク②</p> <p>第15回 テスト</p>
履修上の注意	実技を取り入れるため、動きやすい服装で参加してください。
成績評価	理学療法技術論Ⅲ前期・後期 それぞれ60点以上で単位習得 60点以下の場合は再試験は実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。
テキスト	参考図書、その他
	毎回プリントを配布します

講義名	理学療法技術論Ⅲ
講師名	笠井正（実務家教員）
学年・期	3年後期（通年）、1/2単位、30/60時間（講義）
講義目標	理学療法手技のひとつにストレッチングがあります。そのストレッチングの方法の中にIDストレッチング（Individual Muscle Stretching）があります。このストレッチングの技術習得を目標にこの講義を行います。個別の筋に対してのアプローチになりますから、筋系の解剖学の復讐も兼ねております。したがって、解剖学の教科書も持参してください。
授業計画	<p>第1回 IDストレッチング総論1</p> <p>第2回 IDストレッチング総論2</p> <p>第3回 IDストレッチングの定義と基礎知識</p> <p>第4回 IDストレッチングの基礎知識</p> <p>第5回 ランドマークと触診</p> <p>第6回 IDストレッチングの方法とデモンストレーション</p> <p>第7回 体幹・上肢①</p> <p>第8回 体幹・上肢②</p> <p>第9回 体幹・上肢③</p> <p>第10回 体幹・上肢④</p> <p>第11回 下肢①</p> <p>第12回 下肢②</p> <p>第13回 下肢③</p> <p>第14回 下肢④</p> <p>第15回 下肢⑤、まとめ</p>
履修上の注意	実技を伴う講義では、運動可能な服装を用意してください。
成績評価	理学療法技術論Ⅲ前期・後期 それぞれ60点以上で単位取得 60点以下の場合は再試験を実施する。（前期・後期とも単一単位扱いとする） ただし、成績評価は前・後の平均点にて評価する。 また、前・後のいずれか一つでも不可があれば単位は未修得とする。後期単位認定：笠井
テキスト	参考図書、その他
	IDストレッチング第2版 編集：鈴木重行 三輪書店

講義名	摂食・嚥下指導	
講師名	山崎 良一（実務家教員）	
学年・期	3年後期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	摂食・嚥下を実感する 障害を考える	
授業計画	第1回 嚥下の基礎 摂食・嚥下メカニズム 第2回 摂食嚥下障害の原因・症状 第3回 摂食嚥下障害の診察と検査・評価 第4回 摂食嚥下障害のリハビリテーション 1 第5回 摂食嚥下障害のリハビリテーション 2 第6回 摂食・嚥下障害（姿勢調整） 第7回 摂食・嚥下障害（食事介助） 第8回 摂食・嚥下障害 自助具・食器 第9回 摂食・嚥下障害 リスク管理（肺炎 窒息 脱水 栄養障害） 第10回 吸引の実演 第11回 歯科・口腔外科 口腔ケアと口腔機能 第12回 耳鼻科 外科的治療 第13回 栄養管理 第14回 総論 第15回 テスト	
履修上の注意	講義と演習	
成績評価	試験と提出物により判定する。	単位認定者：山崎 他
テキスト	参考図書. その他 プリント配布します	

講義名	地域理学療法学	
講師名	松井 有史（実務家教員）	
学年・期	4年後期. 1単位. 30時間（講義）	
講義目標	地域理学療法学とは理学療法の対象となる問題は、退院後も存在する。対象者が在宅生活を送る中で障害の悪化の予防や機能回復を図るための理学療法士および社会の活動について学習します。	
授業計画	第1回 地域理学療法について オリエンテーション 第2回 地域理学療法の基礎 第3回 他職種連携とは 第4回 地域理学療法における他職種の専門性を知る1 第5回 地域理学療法における他職種の専門性を知る2 第6回 地域理学療法における他職種の専門性を知る3 第7回 地域理学療法における治療法1（訪問理学療法の実際） 第8回 地域包括ケアシステムとは 第9回 地域包括ケアシステム（和歌山市の実際） 第10回 地域包括ケアシステム（自立支援会議1） 第11回 地域包括ケアシステム（自立支援会議2） 第12回 地域包括ケアシステム（自立支援会議3） 第13回 地域における健康体操等の実際1 第14回 地域における健康体操等の実際2 第15回 まとめ	
履修上の注意	今後の社会情勢に関わる授業になります。しっかりと復習しましょう	
成績評価	出席状況と授業への取り組みにより判断	単位認定者：松井有史
テキスト	参考図書. その他	
	適時、資料を配布する	治療の目で見えるレクリエーション 監修 高橋精一郎 著者 清水和代 神陵文庫

講義名	地域理学療法学実習		
講師名	亀井 貴史（実務家教員）		
学年・期	4年後期. 1単位. 30時間（講義）		
講義目標	地域理学療法学実習では施設見学を通じ、地域における理学療法士および社会の活動について学習します。また、施設にて実習を行う。		
授業計画	第1回	地域リハビリテーションの定義と制度	
	第2回	地域リハビリテーションの定義と制度	
	第3回	急性期・回復期リハビリテーション病棟を有する病院の役割	南河
	第4回	介護予防・地域支援事業と地域包括ケアシステムの理解	
	第5回	介護予防・地域支援事業と地域包括ケアシステムの理解	
	第6回	介護保険法の仕組みと利用の流れ	
	第7回	介護保険法の仕組みと利用の流れ	
	第8回	ケアプラン作成実習	
	第9回	住環境整備プラン作成実習	
	第10回	福祉施設体験実習（プライマリーネット）	
	第11回	福祉施設体験実習（プライマリーネット）	
	第12回	福祉施設体験実習（プライマリーネット）	
	第13回	福祉施設体験実習（プライマリーネット）	
	第14回	福祉施設体験実習（プライマリーネット）	
	第15回	地域リハと理学療法士の役割に関する検討会	
履修上の注意	服装は下記の要件でお願いします。 プライマリーネット：学校指定の白衣		
成績評価	出席状況・レポート・受講態度など		単位認定者：亀井貴史
テキスト	参考図書. その他		
	プリント配布します		

講義名	住環境学
講師名	石橋 誠隆（実務家教員）
学年・期	2年前期, 1単位, 30時間（講義）
講義目標	<p>増加する高齢者や地域・在宅で生活する障害者にとって生活しやすい環境を作ることが求められる社会となっている。ここでは、つぎの5点を目標に学んでください。</p> <p>①高齢者や障害者を取り巻く社会状況と住環境整備について理解する。②障害のとらえ方と障害の特性について理解する。③疾患・障害別にみた住環境整備について理解する。④福祉住環境整備のマネジメントと基本技術について理解する。⑤福祉用具について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境①（生活状況と住環境整備・介護保険）</p> <p>第2回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境②（オレンジプラン・住宅施策） 障害者を取り巻く社会状況と住環境①（生活と住環境）</p> <p>第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境②（福祉施策・住宅施策） 福祉住環境コーディネーターの役割と機能</p> <p>第4回 (1)障害のとらえ方、(2)リハビリテーションと自立支援 (3)高齢者の心身の特性、(4)障害者の心身の特性</p> <p>第5回 在宅介護での自立支援の在り方 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備①（脳血管障害など）</p> <p>第6回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備②（関節リウマチなど） 障害別にみた福祉住環境整備①</p> <p>第7回 障害別にみた福祉住環境整備② （内部障害など）</p> <p>第8回 障害別にみた福祉住環境整備③（認知・行動障害など） 福祉住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方</p> <p>第9回 福祉住環境整備関連職への理解と連携 相談援助の実践的な進め方</p> <p>第10回 福祉住環境整備の共通基本技術</p> <p>第11回 生活行為別福祉住環境整備の手法①（外出など）</p> <p>第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法②（入浴など）</p> <p>第13回 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識</p> <p>第14回 福祉用具の意味と適用 生活行為別にみた福祉用具の活用①（起居・就寝など）</p> <p>第15回 生活行為別にみた福祉用具の活用②（排泄など） まとめ</p>
履修上の注意	<p>予習・復習をしっかりと行ってください。アクティブラーニング型の授業を行いますので、能動的に学習に取り組んで知識などの修得に努めてください。</p> <p>福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指します（受験は任意です）。 受験料6,480円と交通費等の諸経費が必要です。</p>
成績評価	<p>小テスト・期末試験・課題等から総合的に判断します。</p> <p>単位認定者：石橋 誠隆</p>
テキスト	<p>参考図書, その他</p> <p>福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式 テキスト&lt;改訂5版&gt; 東京商工会議所編</p> <p>配布資料あり。</p>



講義名	臨床評価実習
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位
講義目標	<p>学内で学んだ各種理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、理学療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。</p>
授業計画	<p>1 週目 実習前OSCE。オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した理学療法評価を抽出できる。</p> <p>4 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p> <p>5 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p>
履修上の注意	<p>詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること</p>
成績評価	<p>臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評定表に加え、実習前OSCE、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。</p>
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>リハビリテーション評価ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社</p> <p>理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂</p>
実習の手引き	

講義名	臨床総合実習Ⅰ
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	4 年 学期 前期 時間 360 時間 必修 8 単位
講義目標	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる</p> <p>4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる</p> <p>5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる</p> <p>6 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる</p> <p>7 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>8 週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。
テキスト	参考図書. その他
実習の手引き	リハカルテ活用ハンドブック MEDICAL VIEW 理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 協同医書出版 PT卒後ハンドブック 三輪書店

講義名	臨床総合実習Ⅱ
講師名	専任教員（実務家教員）
学年	4 年
学期	前期
時間	360 時間
必修	必修
単位	8 単位
講義目標	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3 週目 リスクを加味した上で理学療法の内容を抽出できる。</p> <p>4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法が実施できる</p> <p>6 週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる</p> <p>7 週目 リスクの低い患者様に臨床実習指導者の監視のもとで基本的理学療法が実施できる</p> <p>8 週目 臨床実習指導者の助言・指導のもと基本的理学療法を遂行できる。実習後OSCE。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験すること
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び実習後OSCEにて判定する。
テキスト	参考図書. その他
実習の手引き	実践すぐに見えるリハビリ技術マスターガイド  理学療法評価学 文光堂 ランニング 南江堂

---

講義名	臨床総合実習Ⅲ
講師名	専任教員、実務経験のある教員（各施設の実習指導者） （実務家教員）
学年・期	4学年・前期 45時間 1単位

---

講義目標 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの見学を通じて、地域とのつながりにおける理学療法士の業務の理解や障害者や高齢者に対するリハビリテーションについて経験し、理学療法士を目指す学生としての方向性を確認する。

---

## シラバス

- 1日目 オリエンテーション・施設説明
- 2日目 指導者より地域での理学療法士の役割について説明を受ける
- 3日目 理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の専門性について説明を受ける
- 4日目 理学療法場面を見学し、指導者より地域の繋がりについて説明を受ける
- 5日目 実習まとめ

---

履修上の注意 各施設への割り振りを確認してください。  
見学に行った施設へお礼状は必ず出す事。

成績評価 レポート提出、出席、受講・見学態度を総合して評価する

---

テキスト 参考図書、その他

特になし

本実習は「実務経験のある教員等による授業科目」に該当する

---